

第5回 北秋田市保育園等の在り方検討委員会 議事録

平成 25 年 4 月 23 日

<代理委員>

神成委員→成田委員（県北報公会理事）

丹波委員→小塚委員（しゃろーむ統括園長）

<交代委員>

三上委員→鈴木委員（北秋田市健康福祉部長、人事異動による）

はじめに～事務局から～

検討委員会の副委員長でありました神成 昭弘さんが 4 月 7 日急逝されました。皆様のご了承を得られれば、黙祷を捧げたいと思います。その場でご起立をお願い致します。

ご故人様の在りし日の姿を偲び、黙祷を捧げます。

《黙祷》

1. 委員長あいさつ

4 月も終わりに入ったわけですがけれども、今黙祷を捧げたように神成理事長さんが亡くなられて、大変残念に思います。この会議で私が最後に会ったのは、3 回目か 4 回目だと思いますけれども、最後にいろいろなお話をして、出川さんと 3 人で、これからもよろしく願い致しますということを話したと思いますが、それ依頼お目にかかれなくて、残念な結果となったわけであります。心からご冥福をお祈り申し上げたいと思います。

さて、今日は第 5 回目の委員会でありますけれども、今までいろいろ話し合われて、この冊子(第 5 回保育園等の在り方検討委員会の資料として事前に配られたもの)に「北秋田市保育園等の在り方に関する提言書」がありますが、この中の目次にあるようにこのような日程と流れで進めて参りました。しかし、結論というものは今まで一度も話をしたことがないということです。たびたび出川さんからお叱りを受けたわけですが、日程的に見ますと、実質的に今日が最後となっております。

皆さん、今日話し合いをして、それぞれ残る問題もあるかもしれませんが、全体の総意として思っていることを十分に話していただきたいと思います。皆さん、それぞれいろいろな考え方があるかもしれませんが、最終的には、全体の委員会としての総意でまとめていかなければならないと思っております。

なお、新年度に入ってメンバーが若干変わっております。市からは健康福祉部長の三上さんが退職をされて、鈴木さんになりました。それから今申し上げましたように、県北報公会の神成さんがお亡くなりになったということですが、委員としてはそのまま（神成さんのまま）で、成田さんが代理出席という形で進めていくこととなります。よろしくお願い申し上げます。

2. 後任委員紹介（事務局から）

それでは、新しい委員をご紹介申し上げます。北秋田市健康福祉部長の鈴木です。一言お願いします。

《鈴木委員》

4月の人事異動で健康福祉部長に任命されました鈴木でございます。委員の皆様には公私ともにご多忙の中参加いただきまして、本当にありがとうございます。また、皆様には10年先、20年先を見据えての保育園の在り方について、視察研修も行いながら、大変建設的なご意見を述べていただいておりますことに、心より感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

私は以前福祉課の方におりまして、その時は前田保育園、阿仁合保育園、それから認定こども園のしゃろーむの建設を担当しておりましたが、いろいろと思い出に残っております。また、北秋田市は子どもの数が段々と減ってきており、年間の出生数も200人を切って、平成24年度は156人となっておりますけれども、子どもたちは本当にかげがえのない大切な宝物だと思っております。是非一緒に提言をまとめていきたいと思っておりますので、よろしくご指導ください。お願いいたします。

3. 議事

委員長	先般、ホームページの話が出まして、若干意見の違いがありましたけれども、再度、事務局から見解をお願いしたいと思います。
事務局	提言書をまとめるに当たりまして、議事録を再度熟読させていただきましたが、若干適切でない表現がありましたので、柔らかい表現にしたものに直してからと思っております。
丹波委員（代：小塚）	ホームページの件については、北秋田市の保育所の在り方検討委員会でするので、載せるのは当然だと思います。保護者の方も地域の方々も、北秋田市の保育はこれからどうなるのだろう、子育てはどうなるのだろうと大変興味・関心ありますので載せるべきだと思います。視察研修などについては、まとめの形で載せて、これからの最終的なまとめの提言書の部分については、一語一句載せるのがいいと思います。他の方のご意見を伺ってみたいと思います。
委員全員	同意見です。
事務局	あと1ヶ月と時間はありませんが、事務局にお任せいただいて、柔らかい表現で、十分に配慮してまとめたいと思いますが、次回の時に最終版をお示しして、皆様からご協力いただければと思いますが、いかがでしょうか。
委員全員	はい（賛成）

委員長 委員 事務局	それでは、そのように進めたいと思います。
	<p>議題（１）第４回検討委員会議事録について</p> <p>事前に渡されている第４回検討委員会議事録について、何か問題がありましたら発言をお願い致します。</p> <p>特にないということで、次の次第に進めさせていただきます。</p>
事務局	<p>議題（２）第３回・第４回検討委員会まとめについて</p> <p>第３、４回目については、議事録をまとめたものが、「第３回・第４回北秋田市保育園等の在り方検討委員会まとめ」です。第２回目の時の議事録をまとめた「まとめ」も既にお示ししておりますが、それをさらにまとめたものが、「北秋田市保育園等の在り方に関する提言書」（案）になっているということをご理解いただければと思います。ただし、「まとめ」から「提言」に至っての、まとめ方の作業については、ご意見があれば伺いたいです。</p>
委員長	<p>議題（３）「提言書」（案）について</p> <p>一括してご意見などありましたら、発言していただきたいと思います。</p>
出川委員	<p>提言とはどこまでの範囲の提言なのでしょう。我々の今までの意見交換会で話し合ったものがすべて含まれていて、この検討会を元に事務局で提言案を作成したのであろうと思っておりますが、それでよろしかったでしょうか。</p>
事務局	はい。
出川委員	<p>今までの検討委員会は今日で実質的には終わりなのですが、非常に大雑把で入り口止まりのところもたくさんあり、中身の方まで入り込めないものたくさんあります。その中でどこまでの範囲で提言すればいいのかということをお示しいただければ発言の内容もまた違ってくるのではないかと。</p> <p>例えば、この提言書（案）の中には、（公立保育園の効率的運営について）４つの手法（運営委託、指定管理者制度、民間移管、統廃合）があると事務局から説明していただいておりますが、どこまで掘り下げて検討したのかということがちょっと見えてこない。だから我々がプロジェクトチームに提言するとすればどこまで提言すればいいのか、プロジェクトチームの方からご意見をいただければと思います。</p>
委員長	<p>私も分かっていないです。本当の目的というものは触れられておりませんが、今まで話し合いの中で見えてきた保育園の現状と課題というのは、この通りでいい訳ですね。《委員全員・・・はい》</p> <p>これ（現状と課題）を踏まえて、市の保育園７つをどうするのかとい</p>

	<p>うのが我々に与えられた使命だと思っております。</p> <p>ですから、今まで浅く広く話し合ってきたことを踏まえて、市の保育園を今まで通り運営するのか、それとも民営化するのか。民営化する場合には、このような手法（4つの手法）があるということだと理解しております。</p> <p>事務局の方々から直接私が聞いた訳ではありませんが、様々な背景があって、全体の子育てとかの意味合いもあるけれども、もともと目的はそこにあるのではないかと思っております。</p> <p>そして、その都度いろいろな課題が出てきて検討している訳ですが、今日が最終日だということで、皆さんの本当の思いを出していただきたいと思います。</p>
丹波委員（代：小塚）	<p>私も不完全燃焼ですけども、これまでの保育の在り方についての結果論的なことが検討委員会で話し合われてきたような気がして、希望とか目的というのは触れられていないかと思えます。</p> <p>ただ、気になっていることがあります。今、子ども・子育て関連3法が動いており、平成27年度からスタートしますが、その法律に合わせたところの北秋田市の保育の在り方について、市はどう思っているのでしょうか。それはこの定義が上がってから考えることなのか、私たち委員会もそれを見据えた形で発言していかないといけないと思います。事務局は、この委員会だけで話し合われたことだけを提言書（案）としてまとめたのか、それとも委員会の意見プラス法律をかみ合わせてまとめたのか確認した上で、発言しなければいけないのかなと思っているのですが、事務局はどうお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>《ホワイトボードで図を使用しながら説明しながら》市長から委嘱を受けて検討委員会が発足し、いろいろな議論をして出た意見をまとめて「提言」として市長に出すというイメージです。</p> <p>提言が市長に行ってから、ゼロからスタートするわけにはいかない。プロジェクトチームのメンバーは、同時進行の形で、検討委員会で話し合われた内容については共通理解を持っています。問題点についてもその都度、財政部門、人事部門などと話をしています。</p> <p>プロジェクトチームは意見を言う部門ではありませんので、提言を受けて、出来るか出来ないか、あるいはどうすれば出来るかというのを実務的に考えるのがプロジェクトチームです。提言が出されてからが、プロジェクトチームは忙しくなると考えていただければよろしいかと思います。プロジェクトチームは市役所の職員ですから、市長の命令で動くということになります。</p>

	<p>先般の市長選挙では、二人の候補がともに子育て施策の充実を訴えました。当選した津谷市長は、検討委員会の提言を真摯に受け止めて実行するという発言をしています。この提言は非常に重いと思います。</p> <p>この検討委員会で子育ての在り方をきちんと提言していただければ、市長が真剣に検討する、という流れです。</p>
田口委員	<p>検討委員会も終わりに近づきましたが、今まで保育士の確保の問題、各事業の実施の問題や保育施設環境の整備等の問題でも、お互いに意見を出し合うところまではいったのですが、最終的に財政的に厳しいということで話し合いが進んでいないので、子育て支援や次世代育成支援対策と言っておりながら、財政的な問題で終わってしまうのはちょっと違うのではないかと思います。今日はもうちょっと具体化した内容に進んでいかなければいけないと思います。</p> <p>やはり、委嘱を受けたからにはこのままでは終わられないかと思い、今日の委員会に出席しました。</p>
出川委員	<p>今までの検討委員会では、検討しなければならない問題点が網羅されていたかと思います。抜けていた点はなかったかと思います。</p> <p>ただ、公立も私立も含めて保育所経営について、どうあるべきかということに話を持って行かないと意味のない検討委員会になってしまうと思ってきたわけです。</p> <p>次の 2 つの点について、考慮して今日の回を進めていただくわけにはいかないでしょうか。</p> <p>1 つは、北秋田市の保育園等は現状ではどうしても立ち行かなくなるのかどうかということ。立ち行かないとすると、何をどうするのか。もっと掘り下げて考えていかないとこれから 10 年先、20 年先の保育園等の在り方につながっていかないのではないかと。課題が何でその解決の為にどのような施策をプロジェクトチームに求めるかということ。これが私達の委員会の最もやるべき任務の 1 つだと思います。</p> <p>2 つ目は、4 つの手法があると事務局の方からありましたが、具体的にはどのように進めるのか。</p> <p>これを話し合うとなると、今日と次回（第 6 回）との 2 回だけだが、時間ありきではない。じっくり進めていかなければいけないと思うから、例えば指定管理をしている大館市などお訪ねするなどして、いろいろな課題や問題点を確かめ合って私達なりに、北秋田市ではそれらをどうするかという風な点まで検討して提言をまとめていくようにするべきでないかと考えております。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。大変立派なご提言ですけれども、やはり時間</p>

	<p>の制限があると思います。ここは研修委員会でもありませんので、せっかくこの若い人方（保護者会の方々）が、保護者の考え方も聞こうと、浅く広く色々な問題を話し合いして将来の保育園等の在り方を検討しようという会議であります。</p> <p>でも、非常に大事な話をしていただきました。公立保育園のことだと思いますが、現状では立ち行かなくてはいけないのかという話ですが、どうですか。</p> <p>私個人的な意見としては、立ち行かないとか立ち行くとかは方法次第だと思います。今見るとおり、6割近くが臨時職員、このような状況では立ち行くと思います。ただし、全職員を正職員にするということになれば立ち行かないと思います。現実的な話をすれば、全部これを実行するとなると、市の現状の財政では厳しい状況であります。今まではお年寄りにお金をかけてきたが、それを少しでも子供さん方にかけていこうという風に、国の方でも修正しつつある状況です。でも、北秋田市の現状を見れば、全員を正職員にする財政的余裕はないため、立ち行かなくなる状況になると思います。</p> <p>今のまま（6割近くが臨時職員の状況）では、立ち行くかもしれません。それでも保育士が集まらない問題などもあり、恐らく事務局は、私が直接聞いたわけでないけれども、そのような問題をどうするかということだと思います。私は、これは 100 パーセントの考え方はないような気がします。最終的には、財政的な問題だと思います。</p> <p>私が間違っているかどうか分かりませんが、私は経営者の立場から今まで申し上げておりますが、保育園の先生方は今までの経験上から参加していると思っておりますし、若い方々（保護者会）は、保護者の立場から発言していると思っております。ですから、それを全部総合的に判断して、不足するかもしれませんが、最終的な結論といいますか、この委員会としての結論を出していくのが、我々の立場かと思っています。</p>
丹波委員（代：小塚）	<p>委員長がそういう方向付けするのは好ましくないと思います。例えば、高齢者にだけお金をかけてきたという発言も言うべきでないかと思います。おかげで若い方々が働けるわけです。費用対効果で家族が支えられている。子育てにもこの町なりにかけてきたわけです。障がいのある方々もいるし、子どもの産めない人、お年寄りの方々も、このような施設があるから恩恵を受けてきたわけです。</p> <p>私達も財政的なことも考えていかなくてはいけないのです。公立の保育園の在り方も民間の保育園の在り方も、北秋田市としてどうするかということが、なかなか意見として出せないで今まで進んできたので、出</p>

	<p>せればいいかなと思います。</p>
出川委員	<p>金がないということはその通りだが、それだけで片付けられると私たちが話し合っている意味がなくなってしまうわけです。今のやり方ではダメだとすると、どこを改善していけば成り立つのかということを議論しなければならない。どうしてもダメだとなれば、今の公立保育園の直営の形を変えていかなければならない、公立保育園ばかりではなくて、我々の法人の場合も、それにどう巻き込んでいくかという議論が必要でないかと思います。</p>
金澤委員	<p>佐々木委員とお話する機会もあり、その時に出了ましたが、保護者の立場から言わせてもらいますと、北秋田市が合併して 8 年経ちますが、公立の保育園内の保護者会の仕事の内容が全然違って、多少違和感があります。そういった意味でも北秋田市の中で公立保育園の統合化になっていないと思います。例えば合川地区、米内沢地区ではバスが出ているので、阿仁部でも鷹巣地区でも統合化を図ることや、延長保育の時間も地区により違うので、統一してもらえたらと保護者の立場から一つの意見があります。</p> <p>北秋田市の保育の子育て支援情報誌「すくすくきたあきた」がありますが、果たしてこの情報を保護者の方が何人知っているかと思います。この 1 年を通してその辺の周知が全然出来ていないなと感じます。まずは、この辺の周知を徹底してもらおうと、「北秋田市でこんなことをやっているのだなあ。」と保護者の皆様に分かってもらえるのかなと思います。</p>
委員長	<p>合併して 8 年経ちますが、確かほとんどの所が完全に統一にはなっていないかと思います。無理に統一しようとするれば、どこかに歪みが出てくるということで、緩やかに改善をしていく流れだと思っております。このように我々の中でもいろいろな意見がある中で、恐らく事務局は参考にして、市長が最終的な判断をするのだと思っておりますので、最初にお話しましたように、自由な発言でもかまいませんので、皆さんは市の保育園をどうすればよいと思いますか。</p>
出川委員	<p>その前に、市が公立の保育園をこのままで良いと思っているのか、どのように思っているのか示していただきたい。</p>
事務局	<p>事務局としては、検討委員会を作ったことで、このように本音で言い合える場ができて大変良かったと思います。それから、先ほど出川委員が、問題は「明らかになったけれども・・・」とおっしゃいましたが、問題が明らかになっただけでも良かったと思います。何故保育士が足りないのか、どのくらいの率の子どもが保育園に入るのかという情報や分析がこれまでなかったわけです。事務局はこの 1 年間、他市の情報を集</p>

	<p>めるなど、いろいろと調べました。その中で 5 年後、10 年後どうなるのかというイメージがぼんやりではありますが見えてきました。今から始めないといけません。現状を皆さんと共有することから始めないといけないのではないかと思います。</p> <p>提言書の資料ですが、もともと膨大な量があったものをコンパクトに、現状が分かるようにまとめました。現状、それから 5 年後、10 年後どうなるのかという予測から始めないと在り方も考えられない。</p> <p>保育士が足りないのは、今に始まったことではありません。保育士を確保のための名案は、今のところ見つかりません。しかしながら、みんなで知恵を絞ってやっていかないといけない。</p> <p>人をどうするかとなると、市役所の中では財政課、総務課を福祉課で説得していかなければいけません。今後、プロジェクトチームで議論が始まりますが、検討委員会の皆さんは、私たちの応援団になってくれることを期待をしています。検討委員会はあと 1 回で終わりますが、この後のスケジュールについても関心を持っていただき、いろいろな場面で発言をしていただければと思っております。</p>
出川委員	<p>分かったようで分からないです。現状を是認するという前提で考えているのか、改善しないと、手法を変えていかないといけないと考えているのかということが分からない限り、私たちはそこに入り込めない訳です。</p>
事務局	<p>現状がいいとは一言も言っておりません。問題があるから検討委員会を開催したわけです。市がこういう意見だからこうして下さいとは言っておりません。市が皆さんのご意見を聞きたいから、この検討委員会をやっているのです。提言は非常に重要です。現実的に実現可能なもの、難しいけれどもやるべきもの、そういう形の提言を出していただければと思います。</p>
委員長	<p>いろいろな問題があり、与えられた課題の中で、我々としてどうするか、どうすればいいかということを皆さんに聞いているわけです。</p>
丹波委員（代：小塚）	<p>このような現状を見据えた上で、「このような方向に向いてほしい」という思いを伝えればいわけですね。提言を受けて、それぞれの委員から意見を述べたものを、プロジェクトチームで総括して、北秋田市の方向性を市長に提出する流れかと思いますが、その時に、国からどこの保育園も認定こども園にという動きなどもあります。事務局やプロジェクトチームで国の動きも踏まえた上で、方向性を持って行ってくれているのかということ聞いた訳です。</p>
田口委員	<p>それぞれの地区で待機児童が発生しているところもあれば、定員割れ</p>

	<p>がだいぶ進んでいるところもありますが、どこにも園長がいなければいけませんし、正規職員もいなければいけない。小学校に上がるときに、通っていた保育園と違う学区の場合などもありますが、その地域にはその地域の保育園の良さがあるので、人数だけでは片付けてはほしくないことです。</p> <p>子育て支援と言っておりながら、正規職員がいなくて、非常勤職員で補っていて、さらに非常勤職員もいない場合、資格のない保育補助で補っていることに疑問を持ちます。</p> <p>鹿角市でも、職員確保の問題がこの先もあると言っていました、何十年もがんばっていてもクリアしていないので、やるにつれて色々な問題、課題が出てくると思います。経営者でないので専門的なことは分かりませんが、子どもを主として考えていかないといけないと思います。鹿角市を研修して、子ども達が帰って来られる、地域の方々がそこに行けるというやり方が大変すばらしいと思いましたので、保育園だけでなく色々な形で考えていただければと思います。</p>
委員長	<p>地域によっても、保育園によっても、特徴はありますが、私立、公立の違いはあまりないような気がします。ただ、将来このままで行けるかというと、非常に難しい。ですから、どうするか。</p>
丹波委員（代：小塚）	<p>田口委員がおっしゃったように、保育の中身はどれも大体同じなわけですからこそ、規模が各地域狭まれてきているために、コンパクトな形でまちづくりの一環として子育てをどうするかといった時に、みんなが集うような形でやれば良いなということです。高齢者福祉と同じです。小規模多機能と同じです。自由にいろいろな議論の仕方ができるような方向性の保育の在り方をこれからは検討していかなくてはいけないという意味合いを持って話したのですよね。（はい。：田口委員）。そのようなことをここで話して提言に載せて検討していただきたいと思います。</p> <p>せっかく現状が見えてきたわけですから、これからの希望や北秋田市の保育の在り方を統合的に提言として持って行ければいいと思います。</p> <p>どこかが、かみ合わないなあとと思ひまして。</p>
委員長	<p>かみ合わないのは、恐らく私が経営者の立場から話しているので、こういう形になってしまうのではないかと思います。</p>
丹波委員（代：小塚）	<p>いいえ、違います。私も経営者の立場です。今の保育だけでは運営は難しくなっていくと思います。特別保育事業や、色々な子育て支援の機能、児童クラブ、わんぱく、高齢者も含めて考えていく時に、少子高齢化が進み、今まで経験したことのない世の中になるわけですから、保育の在り方も変えなくてはならないわけです。そのことを含めて考えていかな</p>

	いと、時代に乗り遅れると思います。現状に合った保育をこれからはやっていかないといけないのです。民間委託や指定管理も大事ですが、プラスこのことを考えていかないと、この地域から若い人達がいなくなれば困るから、若い人たちが安心して子育てできる環境作りをやるにはどうすればいいかというのを踏まえるべきではないかなと思います、先ほどから話しておりますが、私の意見、どこか違いますか。
委員長	専門家の話になりますが、金澤さん、どうですか。
金澤委員	私は、小塚委員に賛成します。
出川委員	現状で駄目なら具体的な手法を示していただかない限り、話が進まない、同じ話し合いの繰り返しになるのではないかと思います。
鈴木委員	<p>恐らく出川先生がお話になっているのは、市の保育園の現状についてだと思いますが、市で運営するのと民間で運営するのと、何が違うかというところ恐らく今までの会で出ているかと思いますが、民間の私立保育園は、公務員と民間の差額分の民給費のようなものを含めた形で運営費として入ってきます。市の公立保育園は交付税で見たものの、ほとんど運営費のようなものが入ってこない現状です。民間であれば、運営費も国からもらって、税金もあまり使わなくて済むわけです。市であれば、皆さんの税金を投入していくことになるわけです。建設に当たっても、民間の場合は建設費が国、県から出るわけですが、市の場合は出ないため、市で負担するため、それに伴い、税負担が大きくなってくるわけです。</p> <p>当初は運営費も公立、私立の両方にあつたのですが、民間でできる事業は民間にという国の大きな制度の流れの中で、流れに沿わない形で今後保育所を続けていくことはどうか。合併して北秋田市になっても、民間は公立の保育園より歴史が長いし、質も高いです。市であれば色々な保証があるのではないかと思います、どこの保育園も実際は同じなのです。そのような現状を踏まえ、子ども達が段々減っていく中で、当然、誰が考えたって、今、保育園は統廃合していく方向は、みんなが考えなければいけない問題になってくるわけです。</p> <p>特に阿仁地区は定員が少ない訳で、2つの大きな地域に分かれており、15キロ近く離れているため、そこを1つにまとめるのはどうかという問題もありますが、そのようなことも含めての統廃合。当然あるべき姿としては、阿仁地区も1園、合川地区は1園になっているわけですが、森吉地区も1園、鷹巣地区も多いのですが、民間もありますし、公立もあるため、この辺りを統廃合するか、民間でできるのであれば民間にお願いした方がいいのか。市の建物でも建て替えしなければいけないのが、鷹巣中央保育園です。年数も経っていますし、継ぎ足ししながら使って</p>

	<p>いる状況です。建てるとなった場合も、国県からの補助金も出ないので、果たして市だけの負担でやっていいものか。やはり財政的に見た場合、民間で建てるのであれば、民間で補助金をもらって、市も補助する方が、より良いのではないのかなという気がします。ですから、統廃合しながら、民間で建ててもらってある程度進んで行くとすれば、市の負担も少ない形でやっていけるのではないかなという感じもします。これは私の個人的な意見であって、皆さん同じ意見であるかどうか分かりませんが、やはりどこかの段階でこのようなことをやっていかなければ、今のままでは立ち行かないと思います。特別保育事業をやりたいと言っても、公立でやるのは難しいわけです。</p> <p>どっちがいいのかというと、色々な問題が出てきて、非常に難しいです。</p> <p>指定管理した場合は、市の建物を民間に使ってもらって、市立でやるとすれば、運営費が入ってこない。民間が自分たちで建てるとなれば運営費がきちんと入ってくる。既存の建物を使ってやってもらうにしても、民間に無償貸与して民間に直接経営してもらうというやり方の方でなければ、財政負担が大きくなるということも事実なのです。ですから、将来的に力のある民間の法人の方々が、保育所をきちんと経営していつてくれるとなれば、もしかすればいろいろな特別保育事業でもやっていける可能性はあるのではないかと思います。</p> <p>市でやった場合と、民間でやった場合に大きな違いがあるということと、子ども達が確実に減っていくという現状の中で、どのような保育行政をしていけばいいのかを皆さんに考えてもらって提言していきましようということなのです。</p> <p>皆さんが現状、国の動向も踏まえた上で、今後どうしていくかという方向性の意見がなければ、この委員会の意味がなくなってしまうと思います。</p>
委員長	<p>鈴木委員のご意見は、今までの委員会での意見を総合すれば、そういうことになると思います。</p>
近藤委員	<p>阿仁部の方は、少子化が進んでいる形の中で、最終的には統廃合という問題が発生すると思います。その際に、公立をやめて民間となった時に、距離的に広くなり、送り迎えのバスが必要になってくると思います。</p> <p>民間で、バスを利用しながら経営していくとなると、かなり難しいと思います。公立を残し、今の小学校、中学校のスクールバスを利用して、子ども方の送り迎えができないか検討してみる必要があると思います。</p> <p>統廃合の問題でも、距離の問題、バスの問題も検討していかないと。</p>

	合川・森吉にはバスがあり、阿仁は親の送迎という現状もおかしいと思います。
田口委員	<p>大阿仁保育園を建てる時に、平成 26 年くらいまでの児童を予想して定数を決めたのですが、30 人は超えないだろうと定員を 30 人にするかと町で話し合ったようです。</p> <p>阿仁合保育園との統合を考えて、荒瀬あたりに建てるということを考えましたが、0 歳児が打当温泉から来ていて、打当温泉から 0 歳児が来るのはちょっと無理だということになりました。以前、バスは、秋北バスにお願いしていましたが、チャイルドシートの問題が出てきて、秋北バスも駄目になり、スクールバスにもお願いしたのですが、小学生の仕様になっているので、保育園の添乗員が誰か付かないと駄目だということで、それも無理になりました。バスも駄目、統合も距離的に無理ということで今の状況となっているわけです。</p>
委員長	大阿仁は、バスはないのですか。
田口委員	大阿仁は最初からバスは出ていなかったです。
委員長	例えば、北海道とかはどうなのでしょう。
事務局	正確な情報はありませんが、恐らく保護者の皆さんが交代でとかいう形をとっているのではないかと思います。
金澤委員	私、仕事で北海道の道東の方に行っているのですが、見渡す限り何も無いところで、家がポツン、ポツンとある所です。保育園に通うお子さんを見ていたところ、先ほど事務局でおっしゃったように、毎日約 30 分かけて車で通っているようです。バスは年少クラスからと決まっているようです。
田口委員	<p>送ってきてもらっているのですが、もし万が一車内で何かあったときに、運転手さんにも責任問題があるため、スクールバスは結局駄目になったわけです。バスのイスの規格が小学生用と園児では違いますし。</p> <p>チャイルドシートも結構問題になったのです。</p>
近藤委員	スクールバスの座席をチャイルドシートにするなど考えていかないと、なかなか難しいと思いますよ。
丹波委員（代：小塚）	合併してから大阿仁保育園ができて、きれいな保育園ですが、その当時、新しくできたばかりなのに、子ども達が段々少なくなるし、どうなのだろうと心配されたのですが、だからこそ保育の在り方を考えていかなければいけない。高齢者施設の中にも保育の施設があることもあり、そういうケースも考えていかなければいけない。その中で、小学生の子ども達は児童クラブなどに活用したりするなど。今、町内に行っても、子どもと子どもの関わるような機会が少なくなっているからこそ、

	<p>保育園に来て子ども達と関わり合う、そこに小学生も来て関わり合うというような方向の転換をしながら、市の方では保育所の在り方を考えていかなければいけない。阿仁地区には、高齢者施設がありますので、そこを生かすことを考えていかなければいけない。ずっと子どもがバスに1時間も揺られて通うのは、健康上も良くないと思います。</p> <p>以前北海道行った時、バスを改造していました。そこは、幼稚園だったのですが、障害のある子もいたりしていましたが、バスのシートをチャイルドシートに取り替えて付けたり、その子に合わせたシートを手作りで作って運行させていました。教育委員会関係のバスの利活用というのは、保育や病院のバスなど全部含めた形で、トータルでこれからは考えていかなければいけないと思います。</p>
出川委員	<p>一つ一つの問題について考えると限りなく広がっていくわけです。最大公約数的にしかない。どのような絞り方が必要なのか。</p>
委員長	<p>かなり意見が分かれるところですが、このような話をされると際限なくまともになくなりませんか。</p> <p>成田さん、2回目の出席ですが、聞いていてどうですか。</p>
神成委員（代：成田）	<p>途中からで、前後のつながりが分からない状況で聞いておりますが、市の方で運営するとすれば、市の財政を圧迫するので、このような話が出てきているのだということは、前回よりは理解してきました。</p>
委員長	<p>まとまらないことが、まとめだということになるようです。</p>
事務局	<p>お手元にある「提言書（案）」ですが、赤字のところが今までの意見となっておりますが、付け加えたり、訂正したりして、いずれは恐らく提言になる部分かと思います。</p> <p>15 ページの「9. おわりに」の部分ですが、委員長にまとめていただきたいと思います。この委員会が全会一致で終わればいいのですが、必ずしもそうではないと思いますので、個別のご意見があれば、記名でも無記名でも結構ですので、用紙で提出していただいて、それを事務局で手を加えずに、提言書の最後の部分に加えさせていただければと思います。</p> <p>提言書になかった意見などもあれば、付け加えていただければ、バラエティにあふれた提言になるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>9 ページの下から4行目、「防犯システム」とは、何ですか。</p>
事務局	<p>これは、佐々木委員の発言でした。</p>
佐々木委員	<p>緊急連絡の際の緊急一斉送信システムのことです。保育園のパソコンで導入をして、例えばバスが遅れるとか、地震があったけれども自園の児童は大丈夫だということだとかを一斉に流してくれるシステムです。</p> <p>有事の場合、携帯電話の回線がパンクすることが多いので、連絡がつ</p>

	<p>かなくなってしまうのですが、そういうことを改善するために、このようなシステムを入れて登録して、保護者に一斉に現状とか安否確認をするわけです。あくまでも一方的に園の方から、「今このような状況です。」という状況を流す仕組みです。</p>
委員長	<p>操作方法とかは誰が分かるのですか。</p>
佐々木委員	<p>保育園の先生方が、パソコンを使って流すのです。</p>
事務局	<p>「防犯システム」を「緊急一斉送信システム」に変えますか。</p>
佐々木委員	<p>そうですね。その方がいいです。</p>
出川委員	<p>11 ページの意見の下から 10 行目に「民間移管しかないと思う」とありますが、事務局の意見ですか。どなたの意見ですか。</p>
委員長	<p>それは、私の意見です。</p>
出川委員	<p>分かりました。</p>
委員長	<p>だから、このように書けば私の意見で、全体の意見でないわけですが、その辺りをどのようにまとめるかということですね。バスだってそうですね、必要だという意見もあれば、必要でないという意見もあるわけです。断定的に書くと、全体の意見のようになってしまいますし、この提言書（案）を見ていると、同じような表現が多いので、もう少し真意を損ねない程度に箇条的にまとめられればいいかと思います。</p> <p>ただ、最後の締めくくりがどうであるかと言えば、なかなかまとまらない、「後はこの内容を見て、市で判断してください。」ということになってしまいます。</p> <p>その立場、立場でニュアンスが違うと思いますので、委員会として、全体の意見としてまとめるというのは、なかなか難しいと思います。ただ、先ほど鈴木委員が言ったような内容が、大まかに言えば、まとめ方であろうと思います。</p>
丹波委員（代：小塚）	<p>先ほど鈴木委員の方から財政的なこととお話されましたが、その通りだと思います。</p> <p>ただ、民間は運営費が来るから大丈夫だろうと言ったように聞こえましたが、でも施設を建てるにしても全て満部来るわけではないし、自己資金がないと出来ないし、そのうち子どもがどんどん減って、昔の運営費の措置費と違うものだから、財政難になってきた時に、職員は若干昇級したとしても人件費分が不足になってくる。そのようになって来た時の身分保障のあたりを統合した場合にも考えていただけたらと思います。</p>
鈴木委員	<p>そのような提言をしていただきたいのです。</p>
丹波委員（代：	<p>身分保障がないと、統廃合をやった方がいいのではないのかなと思っ</p>

小塚)	<p>ていても、根拠たる財政の支援が将来的に本当にあるのか不安で手を出せないかもしれない。でも、子どものことを考えれば、やった方がいいのではないかと思う。今回、県議会で通れば、臨時交付金が出るかもしれない。ほんの僅かかもしれませんが、それも含めて身分保障の辺りを、将来ずっと市が保障するという確約がないとやっていけないかもしれない。保障してほしい。そして保育行政を伸ばしてほしい。</p>
委員長	<p>提言の中にそのようなことが出てくるかは分かりませんが、例えば民営化することになり、(民間で) 受けるとなった場合、今おっしゃったような条件が合致した契約でなければ、受けられないという場合が出てくると思います。</p> <p>ただ、地域によって保育の在り方が様々あり、トータルでは一概に言えないのだなあと思います。できるだけ地域の意向を組み合わせながら、保育園経営というものをやっていくのがいいかと思います。待機児童がある都会と若干違った悩みがあるのだと思います。</p>
丹波委員 (代 : 小塚)	<p>北秋田市では待機児童はいるのですか。</p>
委員長	<p>いるようです。</p>
丹波委員 (代 : 小塚)	<p>どうしても、年齢的に 0 歳児を入れようと思っても、0 歳児を受け入れるだけの職員数、スペースがないと受け入れできないし、民間は 0 歳児がいないと経営が成り立たない。ある程度当初から保育者の人数もそろえておかなければいけないし、子どもが来ないと、運営費が何千万と違ってくる。</p> <p>市からの支援が必要です。これからは保育に欠ける子という言葉はなくなり、保育を必要とする子ということで、全ての子ども達を受け入れる体制を作っていかなければいけないので、財政と保育の在り方というものを慎重に考えていきたいというのが、現場の声ではないでしょうか。</p>
委員長	<p>全国的にみて、公立と私立の割合というものは、都会はほとんど私立ですよね。田舎に来るほど公立が多い。</p>
事務局	<p>待機児童が全国で一番多いのは横浜市でしたが、民間保育所のほかに、中間的な保育所、マンションの一室とかですが、そういうものを増やしています。それによって待機児童を解消しています。</p> <p>保育園を増やそうとしても、土地を購入して新たに建設するのは難しいですから、民間の土地や建物を借り、民間にお願いしてやってもらう、その代わり市がそれなりの助成をする、補助金を出す、保育士の給料についても手当の保障をするということをやっています。東京都や千葉県でもやっています。</p>

委員長	<p>民間になれば、行政と違い、柔軟な発想でいろいろなケースが出てくる。ただ、民間の場合は、恐らく損してまではやらない。</p> <p>最終的には、民営化に行かざるを得ないのではと思います。その中で、大概のことは課題の解決ができるのではないかなと思っています。</p>
鈴木委員	<p>小さいなりに人数に合わせて、その地域に見合ったものを作っていくことが、これからの保育の在り方ではないかなと思っています。</p>
丹波委員（代：小塚）	<p>「保育ママ」や「企業内保育」なども出てきて、発想の転換が必要になってきている。</p>
委員長	<p>大概のことがそうですが、利用者の方々が欲していることに対して柔軟に対応していく、必ずしもこうでなければならぬという方針はないわけですので。</p> <p>ただ、気をつけなければならないのは、民間の場合は損してまではやりません。税金を使ってやるわけですから、端っこの地域だからとか弱者を切り捨てるようなやり方はできない。</p>
田口委員	<p>園児が少ないからといって、託児所的になると困る。園児が少なくなっても保育の質、中身は落とされないでほしい。みんな誰でも平等に保育を受ける権利があるので。</p>
丹波委員（代：小塚）	<p>本当に中身は落とせませんね。認定こども園では、幼稚園と保育園の資格がないとやれなくなってきております。幼保がセットでないとこれからの子育ては出来ませんよというくらい教育と保育と療育という形の質を職員が持っていないと、これからの保育は駄目ですので、それを踏まえで、小規模でも意識の質を向上させながら関わっていかなければいけないのです。</p>
委員長	<p>先ほど説明されたように、最後に、それぞれの委員の皆さんから今まで言ったようなことでも結構ですし、言い足りなかったことでも結構ですので、出していただきたいということです。</p> <p>何か、これだけは言っておきたいことはありませんか。</p>
出川委員	<p>これからのスケジュールについてですが、どのようなことが組み込まれているのでしょうか。冒頭に委員長がお話ししたように、今日が実質最後ではないかということでしたが、だとすれば、プロジェクトチームがこの後、市長に対して提言するためには、検討された内容を北秋田市としての保育等の在り方を考えて、「経営をこうしていかなければいけない」という絞り込みをしていかなければいけないと思うのです。その絞り込みをするにはあまりにも急すぎる。この提言書を市長に出すだけで終わるのか、この提言書からまとめて 1 つの手法として提言するのか。それぞれの委員が意見をまとめるように 1 枚の用紙が渡されましたが、</p>

	<p>全部のことについてとなると用紙が何枚も必要になる気がします。プロジェクトチームは、手法等について絞るのか、絞るとしたら福祉課の保育所の在り方についての考え方を明確にしてほしい。そうでないと、どのことについてでもいいから書いてくださいといわれても、項目が多すぎて大変です。</p>
委員長	<p>そのほかに何かございませんか。</p> <p>ないようですので、次の（４）今後のスケジュールに移ります。</p>
事務局	<p>議題（４）今後のスケジュールについて</p> <p>今後のスケジュールですが、５月２２日（水）午後３時３０分从这个会場で最後の検討委員会を開催します。提言の最終確認になると思います。３時３０分開始なのは、最後でもありますし、終わってから懇親の場を設けたいと思ったからです。次回の資料をお送りする時に、出欠確認をいたします。</p> <p>その後、委員長から市長に、直接提言書をお渡し願いたいと思っております。日程につきましては後ほど調整します。</p> <p>提言を受けて、市長からプロジェクトチームに「こういう提言があったので、具体的に検討しなさい」という命令が下ると思います。それを受けてプロジェクトチームが、できるかできないか、どうやっていくかということを検討することになると思います。計画ができましたら、これもまた市長に提出するわけですが、その際、パブリックコメントをいただきたいと思います。これは、一般市民の皆さんに計画をお示しし、さらにいろいろな意見を伺うものです。この期間を１ヶ月くらい設けます。その後計画に修正があるかもしれませんが、それを議会にお示しして、そこで検討していただくというものです。検討、検討、検討でしばらく時間がかかりますが、スピード感をもって進めたいと思います。</p>
委員長	<p>言い足りなかったことがたくさんあるように思いますが、それでも、市役所の中で、特別委員会を作っているものを今まで見ておりますが、この検討委員会のように何回もやっているのは、初めて見たような気がします。それでも物足りなく感じるのをどのように取るか。</p> <p>市民の方からも意見を聞いて、市でどのように結論を出すか分かりませんが、たたき台として私たちが今まで話し合われたことが組み込まれます。次回の最終委員会でも話をする機会がありますので、今まで話したことを訂正してもいいし、物足りなかったことを発言する機会もありますので、と思います。</p> <p>若い人たちも仕事がある中で、お集まりいただき、どうもありがとうございました。</p>

	これで、第 5 回検討委員会を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。
--	---